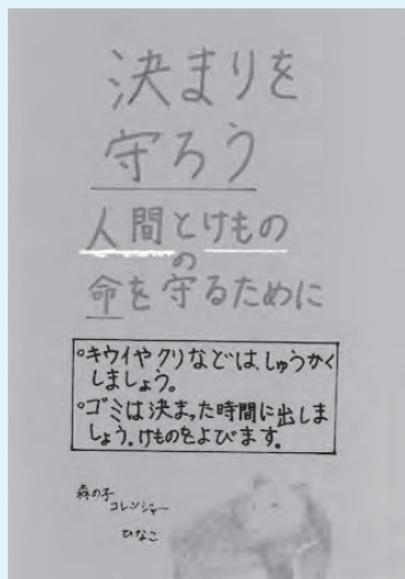


「森のけものは何を食べて暮らしているのだろうか？」そんな疑問から始まった FUN 調査を続ける私は、哺乳類が食べる果実がなり始めると何だかワクワクすると同時にホッと、嬉しくなります。私にとって森のにぎわいは5月中旬に実るキイチゴ類から始まります。その後、クワ、ヤマザクラ、ヒメコウゾ、グミがかわいらしく甘酸っぱい実をつけ、夏はウグイスカグラ、ハナイカダ、キブシ、場所によってミヤマクマヤナギ、夏の実りが少なくなる頃ようやくウワミズザクラが実ると私の心は躍ります。

9月に入ると待ちに待った実りの秋到来。ヤマボウシ、ミズキ、カヤ、アケビ、ドングリ類、オニグルミ、ナツハゼ、マタタビ、アオハダ、オトコヨウゾメ、ガマズミ、ケンポナシ、ムクノキ、リュウノヒゲ、フユイチゴと続き、冬にはツルウメモドキ、ヒサカキ、アオキなどが実った後、5月中旬まで森は一気に寂しくなります。しかし、寂しくなるといってもこの時期は次に訪れるにぎわいの季節へ向けて粛々と準備をしているのです。

例えば、哺乳類の FUN として落とされた種子、食べるために蓄えられたはずの実など、さまざまな方法によって散布された



種子が芽吹く出番を待っています。森のにぎわう直前の春先には芽吹いた姿に出会えることもあります。

あくまでも私の勝手な感覚でしかありませんが、こうした森の1年が果実のなりに一喜一憂しがちな私に、どんなに苦しくてもつながりによって育てられている希望が必ずあるということをお教えしてくれています。また、人の思いどおりにならない自然が時に命の喜びや強さを教えてくれています。

たかが FUN されど FUN、FUN は私に多くの視点を与えてくれました。それは、物言わぬ自然の言葉を知ること、人と自然の新しい共生の姿が見えてくるということかもしれません。

(加瀬澤)